

血液化学療法科後期研修カリキュラム

【目的と特徴】

本院血液内科における後期研修は主として白血病、悪性リンパ腫、多発性骨髄腫等の造血器悪性腫瘍の入院診療を通じて診断に必要な診察、検査法や特異的治療法をはじめ、血液腫瘍内科医として必要な技能を習得することを目的とする。血液内科の診療範囲はこれら造血器悪性腫瘍や各種貧血、血栓止血疾患などの専門領域に加えて、不明熱、自己免疫疾患、免疫不全、感染症など一般内科診療の一部にも及んでいる。本院では高度な専門性を必要とする同種造血幹細胞移植療法を含めて血液・腫瘍内科医として要求されるほぼすべての領域の研修を後期研修期間に集中的に行うことができる。

【行動目標】

1. 血液疾患各分野の症例を経験する。
2. 血液疾患の診断に必要な手技と検査に習熟する。
3. 専門医として必要とされる診断能力を修得する。
4. 専門医として必要とされる治療法を修得する。
5. 全身管理能力を修得する。
6. 専門医としての指導能力を修得する。
7. 患者および患者家族との対応能力を習熟する。
8. 内科認定医受験に必要とされる要件を満たす。
9. 血液内科専門医受験に必要とされる要件を満たす。

【方略】

1. 血液疾患入院患者を主治医として担当する。
2. 血液疾患外来患者を主治医として担当する。
3. 担当医として検査、治療を施行する。
4. 内科医として救急を担当する。
5. 血液疾患以外の一般内科的疾患の一部を主治医として担当する。
6. 症例検討会で発表、討議をする。
7. 学会発表、論文発表を行う。

【専門的手技】

1. 検査・処置・診断
 - 1) 血液塗抹標本の作成

- 2) 骨髄穿刺（胸骨と腸骨）、骨髄生検
- 3) 骨髄標本の検鏡による診断
- 4) 腰椎穿刺（髄腔内薬剤投与）、CVカテーテル挿入
- 5) 移植用骨髄液採取、末梢血幹細胞採取
- 6) 特殊検査（細胞表面マーカー検査、造血器腫瘍キメラ遺伝子解析、染色体検査、HLA検査、止血・血栓検査など）の結果解析
- 7) 血液疾患の鑑別診断、他科からのコンサルトへの対応
- 8) 感染症や治療関連臓器障害など、合併症の診断

2. 対象疾患

急性白血病、慢性骨髄性白血病、慢性リンパ性白血病、悪性リンパ腫（非ホジキンリンパ腫、ホジキン病）、多発性骨髄腫、骨髄異形成症候群、再生不良性貧血、溶血性貧血、特発性血小板減少性紫斑病、血栓性血小板減少性紫斑病、血友病、von Willebrand病、伝染性単核球症、不明熱、リンパ節腫脹、血球貪食症候群、膠原病、好中球減少性発熱、日和見感染症、HIV感染症。

3. 治療法

- 1) 造血器悪性腫瘍のエビデンスに基づく治療選択と化学療法の実施
- 2) 抗癌剤、ステロイド剤、免疫抑制剤、分子標的治療薬の使用法
- 3) 輸血、凝固因子補充療法
- 4) 造血幹細胞移植、大量化学療法の管理
- 5) 汎血球減少時、易感染性患者の管理（抗生剤、抗真菌剤、抗ウイルス剤、G-CSFの使用方法など）
- 6) QOLを重視した悪性疾患患者の終末期医療の実践

【研修方法】

1. 入院患者受け持ち：8－10名以上
2. 外来業務
 - 1) 血液内科外来にて血液疾患患者の診療
 - 2) 新患外来にて一般内科患者の診療
 - 3) 救急外来にて内科系患者の診療
 - 4) 外来化学療法室にて当番医

【具体的達成目標】

1. 後期研修1年次（卒後3年）
 - 1) 自家造血幹細胞移植 2例以上
 - 2) 同種造血細胞移植 1例以上
 - 3) 骨髄採取、自家末梢血幹細胞採取 4例以上
 - 4) 各種研究会、学会地方会発表 2回以上
2. 後期研修2-3年次（卒後3-4年）
 - 1) 自家造血幹細胞移植 2例以上
 - 2) 同種造血細胞移植 3例以上
 - 3) 骨髄採取、自家末梢血幹細胞採取 4例以上
 - 4) 各種研究会、学会地方会発表 2回以上
 - 5) 学会総会発表または論文投稿 1回以上

【週間スケジュール】

火曜午後 5:30 血液・腫瘍内科症例検討会

木曜午後 5:30 内科症例検討会

木曜午後 7:00 文献抄読会

病棟回診、外来業務、各種検査については個々に定める。

上記以外は病棟勤務が主体である。

【専門医など申請資格】

日本内科学会 認定医

日本血液学会 専門医

日本臨床腫瘍学会 専門医

日本輸血学会 認定医

日本感染症学会 感染制御医

【評価法】

毎週の血液疾患カンファレンスにおいて各症例の問題点を上級医に報告し、自己評価をおこなう。指導医による評価は3ヶ月ごとに行動目標の達成度を指標として行う。